

B 119 乳幼児の衣服設計に関する研究(第2報) - 動態の特徴 -

京女大家政○福井弥生 土井サチヨ 藤田仁美

東京医科歯科大解剖 中沢 愈 滋賀女短大 奥村 董

目的 第1報に引き続き、本報では、日常生活における乳幼児の動作の特徴を観察した。これをもとに動作時の寸法的、形態的变化の特徴を捉えて、衣服設計に役立てようと試みた。また寸法変化量から、動作適応のための必要巾とリ量の検討を目的とした。

方法 前報における年齢区分8グループの中から、1名ずつ選んで被験者とした。まず乳幼児の集団において、動作特性を観察し、衣服設計に必要なと思われる姿勢を抽出し、それと類似の姿勢を意図的に再現して、計測を行なった。この際寸法変化を捉えるために、測定点として必要と思われる部位には、ペンシル型口紅を用いてしるしをつけ、ビニールメジャーで計測した。

結果 6ヶ月くらいまでは仰臥姿勢が多くいわゆる蛙位型で、肘をかるく屈曲させて、上肢側方挙上、下肢は曲げ伸ばしの状態が多い。6ヶ月以上1年までは、腹這いから四つ這いへさらに高這いへと移行しながら、1人立ちをする。

1年から2年頃になると、しゃがむ、両脚でびよんびよん踏ぶ、階段を自由に昇降する、物にぶら下がる、という動作ができる。2年以上になると、戸外で遊具により遊ぶようになる。これらの動作特性を考察して計測した結果、衣服設計の際に動作適応巾とリ量として配慮すべき部位は、後腋点間幅、N.P～臍間位後、図の①③④⑥⑦の部位であった。

